

神奈川県自治体等就職推進連絡会同 「自治体との連絡・協力関係を強化」

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 松田辰雄 1等海佐）は、平成28年1月18日（月）、本部において「平成27年度神奈川県自治体等就職推進連絡会同」を実施した。

同会同は、昨年を引き続き2回目、神奈川県内の自治体防災・危機管理職員等と防衛省自衛隊関係者との間で意見交換を実施することにより、相互の連絡・協力関係の強化を図り、併せて退職自衛官の自治体への就職の理解を深めることを目的としたもので、神奈川県本主催で実施した。

神奈川県内には退職自衛官233名（陸17名、海6名）が、県、政令指定都市等に防災・危機管理職員等として採用されている。

当日は、退職自衛官11名を含む20名の自治体の防災・危機管理職員等、自衛隊からは海上自衛隊援護機関、県隊区担任部隊及び地本から15名の参加を得て、各自治体の防災・危機管理上の取り組み等について意見交換を行った。

参加者からは「今後の業務の参考になりました」、「退職自衛官雇用への理解が深まりました」といった声が聞かれた。

神奈川県本は、「県内自治体及び自衛隊との連携の強化、退職自衛官の自治体への雇用拡大のため、今後このような情報交換の場を設けていきたい」としている。



釜利谷中学の「総合的な学習の時間」を支援

神奈川県地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原1陸尉）は、1月26日（火）、横浜市立釜利谷中学校の「総合的な学習の時間」を支援した。同校の総合学習支援は今回で2回目であり、6名の生徒が参加した。

当日は、海上自衛隊横須賀基地において、横須賀地方総監部管理部人事課募集支援係の案内のもと、海上自衛隊の概要（座学）の後、護衛艦「きりしま」の艦内を見学した。生徒全員が護衛艦の乗艦は初めての体験であり真剣に説明を聞いていた。昼食は、横須賀基地食堂にて体験喫食を行い、午後は、曳船によるクルージングを体験、最後に組みひも教室でアクセサリを作成し大いに満足していた。

上大岡募集案内所は、「今後も本支援を継続していく」としている。